

平成30年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：南城市

島名：沖縄

協定対象漁業集落名：知念漁業集落

協定参加世帯数：132世帯（159人）

（うち漁業世帯数：132世帯（159人））

2. 協定締結の経緯

知念漁業集落は、沖縄本島南部の東海岸に位置し、良好な漁場環境を有しており、特にモズク海面養殖が盛んで、沖縄県内で2番目に生産量が多い地域で、沿岸での漁船漁業も盛んに行われており、水産業は南城市の産業に大きく貢献しています。

しかし、近年では、水揚量の減少に加え、魚価もなかなか向上せず、漁船漁業の水揚金額が減少傾向にあり、モズク養殖業においては、生産量の安定や更なる品質向上を目指すため種苗の育成に取組む必要性がある。

このため、漁業の基盤となる漁場の生産力向上や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組みを支援することを目指して離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

産卵場・育成場となる魚礁を設置することにより、水産資源の保全や育成を図ることとした。

新たに浮魚礁を設置することにより、浮魚礁での水揚量の増大を図ることとした。

サメ類を駆除することにより、漁場の保全を図るため漁獲物の横取りや漁具への被害の減少を図ることとした。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

知念漁協主催の“とれとれ朝市”で鮮魚の直接販売を行うことにより、消費者に水産物の消費拡大を図ることとした。

モズクの収穫機として、異物除去装置の導入等により高付加価値化を図ることとした。

4. 取組の成果

①産卵場・育成場の設置

イカ産卵床は平成28年度42基、平成29年度は10基を設置しているが、現場調査するも産卵は確認できていない。イカの水揚げの実績は下記のとおりであるが、実際の効果は確認しづらく、現場調査を増やして卵が着くか確認する必要がある。また、今年度新たに設置した「藻じゃ藻じゃ」を調査したところ時期はずれながら、イセエビ類と思われる稚エビや稚魚も確認された。

（シロイカ水揚げ実績）

平成28年 出漁回数（延べ）152回 水揚げ数量 210.5 kg

平成 29 年 出漁回数 (延べ) 131 回 水影数量 167.3 kg

平成 30 年 出漁回数 (延べ) 89 回 水影数量 103.8 kg

②浮魚礁の設置

当該取組で整備したパヤオによる水揚げ実施は下記のとおりである。

平成 30 年度は、マグロ類の水揚げが減少したが、カジキ類は好調であった。水揚げは、マグロ類の来遊量や設置後の蛸集状況にも左右されるため、引き続き、状況把握に努めたい。

現在のパヤオ漁の実績は下記のとおりである。マグロ類の水揚げは低迷のままだが、カジキ類の水揚げは増加した。

(パヤオ漁法でのマグロ・カジキの水揚実績)

年	魚種	出漁回数 (延べ)	水揚数量 (kg)
平成 28 年	マグロ類	502 回	83,013
	カジキ類	149 回	17,480
平成 29 年	マグロ類	377 回	61,416
	カジキ類	123 回	12,137
平成 30 年	マグロ類	498 回	69,583
	カジキ類	167 回	22,771

③サメ駆除

今年度は、平成 28 年度・29 年度の実績を踏まえ、駆除に使用する餌や道具の改良を行った結果 15 匹捕獲できた。

④鮮魚直接販売

月 1 回行われる日曜朝市のなかで新鮮なマグロの解体ショーを行って集客し、知念漁協で水揚げされる種類豊富な魚を一般の方々へ直接販売している。消費拡大という効果は分かりづらいが、朝市に関する電話問い合わせが増え雑誌などにも取り上げられており、認知度は確実に向上している。今後も継続的に取り組み、地産地消の推進を図りたい。

⑤高付加価値化

モズク漁船の大きさにあったモズク異物除去装置を製造し、当装置を設置した船が増えた結果、モズクに混入する異物の割合が減り高付加価値に繋がると考えられる。